



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2021年2月9日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績 (2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	86,564	0.9	2,762	73.7	2,871	86.0	2,082	110.9
2020年3月期第3四半期	85,757	0.3	1,590	△50.7	1,543	△53.6	987	△56.4

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 2,288百万円 (90.2%) 2020年3月期第3四半期 1,203百万円 (△40.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	86.68	-
2020年3月期第3四半期	41.10	-

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	79,113	49,388	62.4	2,055.75
2020年3月期	78,050	47,664	61.1	1,984.02

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 49,388百万円 2020年3月期 47,664百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	11.00	-	12.00	23.00
2021年3月期	-	11.50	-	-	-
2021年3月期 (予想)	-	-	-	12.50	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正については、本日 (2021年1月27日) 公表いたしました「2021年3月期 (第145期) 配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2021年3月期の連結業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	118,600	0.9	3,600	23.3	3,600	24.2	2,400	27.9	99.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	27,700,000株	2020年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	3,675,613株	2020年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	24,024,387株	2020年3月期3Q	24,024,387株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	10
(継続企業の前提に関する注記) .....	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的に広がっている新型コロナウイルス感染症が終息の兆しを見せず、依然として厳しい状況で推移しました。社会経済活動が徐々に再開されつつあるものの、雇用ならびに所得環境の急激な変化や感染の再拡大の懸念から先行きの見通せない状況が続いています。

菓子・飲料・食品業界は、外出自粛を受けた内食需要の高まりから堅調に推移したものの、生活を支える重要な社会基盤の一部として、安定供給体制の維持、継続を求められる状況が続いています。また、感染拡大の長期化による消費マインドの低下から、節約志向の一層の高まりに注視する必要があります。

このような状況下で、当社グループは一貫して食品製造企業として品質保証第一主義に徹し、感染防止対策の徹底を図りながら、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、新しい生活様式への対応といった社会の変化、健康志向の高まりやECチャネル需要の増加等による購買行動の多様化など、変化する消費者ニーズへの対応として、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。加えて、商品ブランドの強化と付加価値を高めた魅力のある商品開発に取り組むとともに、可能な範囲で最大限の店頭フォロー活動を続け、企画提案型の営業活動を通してお客様の満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、一部品目において、外出・イベント自粛等が継続した影響から伸び悩みがみられたものの、ビスケット品目を中心に大袋商品やロングセラー商品が順調に推移したことにより、売上高は前年同期並みとなりました。

利益面では、生産性向上とコスト削減に加え、主原料の相場が安定的に推移したことから、営業利益、経常利益は前年同期を上回りました。また、投資有価証券売却益を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益も前年同期を上回りました。

なお当社では、今後の感染症拡大継続の状況下における生産体制の維持を目的として、国産素材を使用した純国産マスクの製造を開始いたしました。

### 営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、82,904百万円（対前年同期比101.6%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、「ミルファス」などの「エクセレントスイーツ」シリーズをリニューアルしたほか、ディズニーキャラクターをデザインした歳時向け商品を発売しました。季節限定の展開として、“ホワイトフェア”や“いちごフェア”を実施し、売場を彩る活動を行いました。また、リニューアルした「128gミニ濃厚チョコブラウニー」や「110gミニミルフィーユショコラ」にも引き続きご支持をいただいたことに加え、健康志向の高まりから「80kcal」シリーズにご好評をいただきました。

キャンデー品目は、発売10周年を迎えた「フェットチーネグミ」シリーズに、記念商品として「PRIMEフェットチーネグミ」2品を発売し、さらなるブランドの育成強化に努めました。あわせて、つぶつぶとした食感のソフトグミ「プルプグミみかん味」を発売し品揃えの充実を図りました。

チョコレート品目は、ご好評をいただいている「ひとくちルマンド」に、シリーズ品として「ひとくちルマンドホワイト」を発売しブランド強化に努めたほか、「アーモンドラッシュ」シリーズにコンパクトな食べきりサイズの「アーモンドラッシュコンパクト」2品を発売しました。加えて、家庭で過ごす時間が増えたことから、お客様自身で製作する「プチクマのお菓子のおうち」などに高い支持をいただきました。

菓子全体では、ビスケット品目を中心に順調に推移した結果、前年同期を上回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、3,659百万円（対前年同期比88.5%）となりました。

飲料品目は、ルート限定で、キャラクターをデザインしたミネラルウォーターを発売しました。「牛乳でおいしくホットなココア缶190」は取り扱いが増加し、好調に推移したものの、競争激化の影響から既存品が伸び悩み前年同期を下回りました。

食品品目は、「かんたんクッキング」シリーズにおいて、冬期限定の「スライス生チョコレートとちおとめショコラ」を発売し、内食需要に向けた提案を行いました。また、粉末ココア商品の需要が増加したほか、相次ぐ災害の発生から保存缶商品にご支持をいただきました。機能性食品では、健康志向の高まりから「プロテインバーチョコレートクッキー（WG）」が、引き続き好調に推移しました。個食商品が伸び悩んだものの、品目全体では前年同期を上回りました。

冷凍品目は、“お菓子アイス”の取り組みとして「シルベアアイス」と「ガトーレーズンアイス」を全国展開し、商品認知の向上と品目全体の底上げに努めました。競争激化の影響により既存品が伸び悩んだことから、前年同期を下回りました。

その他では、通信販売事業は、ホワイトロリータ発売55周年を記念したオリジナルクリアファイル付きの詰め合わせセットを発売したほか、魅力的な品揃えに努め、お客様のご期待に応える取り組みを行いました。

自動販売機事業は、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛の影響から、販売は伸び悩んだものの、多様な商品を取り扱うプチモールの設置環境の選択による収益性向上と効率化に取り組み、設置台数の増加を図りました。

酒類販売事業は、限定醸造商品「ホップが躍る晴れ晴れエール」を発売し、ブランド認知向上に努めたものの、海外での感染症拡大の影響から輸出商品が伸び悩み、国内でも外出自粛の影響により土産用受託商品の需要が減少したことから、前年同期を下回りました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は86,564百万円（対前年同期比100.9%）、営業利益は2,762百万円（対前年同期比173.7%）、経常利益は2,871百万円（対前年同期比186.0%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,082百万円（対前年同期比210.9%）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は35,996百万円となり、前連結会計年度末に比べ978百万円増加となりました。これは主に、受取手形及び売掛金の増加と現金及び預金の減少があったことによるものです。固定資産は43,116百万円となり、前連結会計年度末に比べ84百万円増加となりました。

この結果、総資産は79,113百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,062百万円増加となりました。

### （負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は22,762百万円となり、前連結会計年度末に比べ491百万円減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加と設備投資に伴う未払金や法人税等の支払による減少、賞与の支給があったことによるものです。固定負債は6,961百万円となり、前連結会計年度末に比べ169百万円減少となりました。

この結果、負債合計は29,724百万円となり、前連結会計年度末に比べ660百万円減少となりました。

### （純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は49,388百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,723百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は62.4%（前連結会計年度末61.1%）となりました。

### ・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は12,634百万円となり、前連結会計年度末（13,260百万円）に比べ625百万円減少となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は4,042百万円（前年同期941百万円の収入、対前年同期比429.6%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益3,008百万円と仕入債務の増加額1,302百万円があったことによるものです。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は3,892百万円（前年同期4,070百万円の支出、対前年同期比95.6%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4,121百万円があったことによるものです。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は766百万円（前年同期873百万円の支出、対前年同期比87.8%）となりました。これは主に、リース債務の返済による支出199百万円と配当金の支払額566百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2020年4月28日の「2020年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,141	12,651
受取手形及び売掛金	13,066	14,467
有価証券	118	1
商品及び製品	4,599	4,595
仕掛品	555	538
原材料及び貯蔵品	2,796	3,394
その他	744	353
貸倒引当金	△4	△5
流動資産合計	35,018	35,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,365	16,522
機械装置及び運搬具（純額）	11,076	11,483
その他（純額）	9,624	8,378
有形固定資産合計	36,066	36,383
無形固定資産		
のれん	1,091	1,005
その他	397	375
無形固定資産合計	1,488	1,381
投資その他の資産		
その他	5,476	5,351
投資その他の資産合計	5,476	5,351
固定資産合計	43,031	43,116
資産合計	78,050	79,113

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,744	12,045
短期借入金	200	250
1年内償還予定の社債	100	—
未払法人税等	944	380
賞与引当金	1,182	405
返品引当金	36	23
その他	10,046	9,657
流動負債合計	23,254	22,762
固定負債		
社債	—	100
長期借入金	250	200
役員退職慰労引当金	237	242
退職給付に係る負債	5,731	5,595
負ののれん	16	14
その他	896	809
固定負債合計	7,131	6,961
負債合計	30,385	29,724
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	41,140	42,658
自己株式	△941	△941
株主資本合計	48,025	49,543
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	50	199
為替換算調整勘定	△314	△301
退職給付に係る調整累計額	△97	△52
その他の包括利益累計額合計	△360	△155
純資産合計	47,664	49,388
負債純資産合計	78,050	79,113

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第3四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第3四半期連結累計期間 （自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）
売上高	85,757	86,564
売上原価	51,040	50,167
売上総利益	34,717	36,396
販売費及び一般管理費	33,127	33,633
営業利益	1,590	2,762
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	61	59
助成金収入	32	66
負ののれん償却額	1	1
その他	65	61
営業外収益合計	164	191
営業外費用		
支払利息	5	3
減価償却費	14	14
為替差損	170	55
その他	20	9
営業外費用合計	210	82
経常利益	1,543	2,871
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	0	165
特別利益合計	0	165
特別損失		
固定資産処分損	58	5
減損損失	0	21
災害による損失	11	—
その他	1	1
特別損失合計	71	28
税金等調整前四半期純利益	1,472	3,008
法人税、住民税及び事業税	314	732
法人税等調整額	170	193
法人税等合計	484	925
四半期純利益	987	2,082
親会社株主に帰属する四半期純利益	987	2,082

(四半期連結包括利益計算書)

(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 2019年 4 月 1 日 至 2019年12月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 2020年 4 月 1 日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	987	2,082
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7	148
為替換算調整勘定	145	12
退職給付に係る調整額	77	44
その他の包括利益合計	215	205
四半期包括利益	1,203	2,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,203	2,288
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,472	3,008
減価償却費	3,193	3,284
のれん償却額	85	85
受取利息及び受取配当金	△65	△62
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	5	3
為替差損益 (△は益)	119	105
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△165
固定資産処分損益 (△は益)	58	5
減損損失	0	21
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	1
売上債権の増減額 (△は増加)	△322	△1,401
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,930	△578
仕入債務の増減額 (△は減少)	693	1,302
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△758	△776
その他	△724	315
小計	1,825	5,147
利息及び配当金の受取額	65	62
利息の支払額	△5	△3
法人税等の支払額	△944	△1,164
営業活動によるキャッシュ・フロー	941	4,042
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,764	△4,121
投資有価証券の取得による支出	△210	△37
投資有価証券の売却による収入	0	322
その他	△94	△55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,070	△3,892
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	—	100
長期借入金の返済による支出	△150	△100
社債の発行による収入	—	99
社債の償還による支出	—	△100
リース債務の返済による支出	△193	△199
配当金の支払額	△530	△566
財務活動によるキャッシュ・フロー	△873	△766
現金及び現金同等物に係る換算差額	△29	△8
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,032	△625
現金及び現金同等物の期首残高	18,015	13,260
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,983	12,634

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。